

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月25日
研究・研修課題名	第21回日本骨粗鬆症学会への参加と発表
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション科
研究・研修責任者名(所属)	遠藤進一(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	遠藤進一(薬剤部)

成果区分	<input checked="" type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	遠藤進一(薬剤部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第21回日本骨粗鬆症学会(2019年10月11日～10月13日・兵庫県神戸市 神戸国際会議場・神戸国際展示場)
演題名・認証交付元等	当院における再骨折予防を目的とした骨折リエゾンサービスの取り組み
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容①目的

近年、骨粗鬆症治療におけるリエゾン(liaison)サービスが注目されている。その目的は、骨折リスクの評価と新たな骨折の防止、また、最初の脆弱性骨折の予防であり、サービスの提供対象は大腿骨近位部骨折、その他の脆弱性骨折例や高齢者一般である。すでに英国、豪州、カナダではこのようなサービスが実施され、骨折発生率が著明に低下し医療費減少に大きく貢献したとの報告がされている。当院でも、主に再骨折予防を目的とした地域循環型の骨粗鬆症リエゾンサービスを開始しており、そのファシリテーター的な役割を担う日本骨粗鬆症学会認定の骨粗鬆症マネージャーを県内最多6名が取得している。骨粗鬆症マネージャーは地域の骨粗鬆症治療においてリーダーシップを発揮し、より実効性のある骨粗鬆症の予防と治療の普及につなげる上で重要であり、認定更新には学会参加が必須である。また、当院における骨粗鬆症リエゾンサービスの活動を広く知ってもらうこと、活動の評価を学会発表を通して行うことは、今後の地域循環型の骨粗鬆症リエゾンサービス構築に必要である。

②方法

10月11日～13日に神戸市で第21回日本骨粗鬆症学会が開催された学会に参加し、一般口演にて当院における取り組み状況を評価、その結果を発表するとともに、派遣者が最新の情報を入手しスキルアップを図り、他のリエゾンメンバーにその内容を報告し情報共有を行う。

③成果

1. 第21回日本骨粗鬆症学会に参加し「骨粗鬆症マネージャー」資格の更新のために必要要件(単位)の一部を取得した。

2. 学術集会で、当院における骨粗鬆症リエゾンサービスの活動状況を評価し発表することで、当院取り組みを広く知ってもらうことができた。

●発表内容

「当院における再骨折予防を目的とした骨折リエゾンサービスの取り組み」

(様式1)

【目的】近年、骨粗鬆症の予防や治療を多職種で効果的に行う骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)の取り組みが注目されている。当院では再骨折予防を目的とした地域循環型の骨折リエゾンサービス(FLS)を2017年11月より開始した。今回、当院FLSの取り組みと結果について報告する。

【FLSチームの現状】当院FLSチームは整形外科医師3名、歯科医師1名、看護師3名、薬剤師2名、理学療法士3名、栄養士2名、放射線技師1名より構成され、うち6名(看護師1名、薬剤師1名、理学療法士3名、栄養士1名)が骨粗鬆症マネージャーの認定資格を有している。FLS開始にあたり「再骨折予防手帳」を作成した。また、毎月1回ミーティングを実施し、症例の振り返りや院内や出雲圏域の施設への啓発について検討を行っている。さらに2019年2月より、出雲圏域の4施設に対してミーティングをオープン化し、出向いての交流会も実施している。

【方法】4施設のFLSの動向と、FLS開始以降の手帳配付者における退院時の骨粗鬆症処方率、回復期施設の退院時処方率、FRAX評価や骨密度・骨代謝マーカー・口腔内検査および服薬・栄養・運動指導の実施率を調査した。

【結果】4施設すべてにFLS委員会などの関連組織が立ち上がり、各施設に手帳を各50部ずつ配布し、うち1施設においては追加配布を行った。手帳配付者の骨粗鬆症退院時処方率は当院83%、回復期施設93%、FRAX評価85%、検査の実施率は骨密度100%、骨代謝マーカー91%、口腔内検査73%であり、また、指導の実施率は服薬85%、栄養73%、運動91%であった。

【結語】対象の施設すべてにFLSの関連組織が立ち上がり、当院作成の手帳を用いた連携が可能になったことで、回復期施設退院までの骨粗鬆症未治療の減少につながった。また、院内検査および指導の実施率も高い水準を示すことができた。今後は更なる施設間の連携の強化や連携施設の増加を図り、地域循環型FLSの構築を目指したい。

3. 学術集会で聴講した内容を他のリエゾンメンバーおよび薬剤師へ伝達することで当院FLSおよび薬剤部全体の知識の向上に貢献した。

●聴講した内容

「骨粗鬆症を医療従事者へ有効に啓発するために～骨密度測定を併用した啓発方法について～」

独立行政法人国立病院機構東広島医療センター 看護部 山中 恵

近年骨粗鬆症はメディアでも取り上げられ、病名の認知度は上がってきている。しかし、骨粗鬆症がもたらす影響や対策についてはまだ十分に認知されていない。患者とどのように関わっていいかわからないという医療従事者もまだ多い。東広島医療センターでは、医療従事者への新たな啓発方法として、骨密度測定会とポスター展示による自己体験型の啓発活動を行っている。活動内容としては、医療従事者に対し、骨粗鬆症に関するポスター展示と骨粗鬆症マネージャーによる個別相談、超音波式測定器を使用した骨密度測定を実施している。これにより、骨粗鬆症はかけ離れたものとして捉えていた医療従事者も、自身の骨密度の結果やカルシウムチェックで数値化されたことにより、骨粗鬆症を身近に感じるきっかけになっている。従来の講義形式の勉強会のような啓発方法よりも、自分のペースで視覚的に要点をとらえることができ、また個別で指導を受けたことでより理解が深まりやすくなっている。

当院でも骨粗鬆症に対する啓発活動を十分に実施できておらず悩みの一つである。今発表は、院内スタッフへの啓発活動に大いに参考になるものであった。

学会参加および発表により、「骨粗鬆症診療支援サービス」(Osteoporosis Liaison Service、OLS)の役割を担うための骨粗鬆症に関する知識を取得し周知することができ、より一層充実した骨粗鬆症の予防、診断と治療を提供することが可能となった。また、超高齢社会における健康格差の縮小と健康寿命の延伸に大きく貢献でき、島根県の基幹病院としての責務を果たすことにも繋がるものと考えられる。さらに、骨粗鬆症マネージャーの認定更新には学会参加が必須であり、同時にこの要件を満たすことが出来た。